

地域ネットワークニュース

～平成25年6月の勉強会のお知らせ & 5月の勉強会報告～

第185回 地域ネットワーク勉強会

「精神科病院の相談室を活用しよう」



講師：医療法人三省会 本多病院（香取市）
朝比奈千恵 相談員（精神保健福祉士）
土屋 寛夫 相談員（精神保健福祉士）

6月21日(金)

午後7時～午後9時

神栖市保健・福祉会館内
参加費無料

『精神的な病のサイン』として、休んでも体がだるく疲れがとれない。休息を取りたくても眠れない。頭がぼんやりして集中できない。火元や戸締まりを気にしすぎてしまう。気分の浮き沈みが大きい。といった症状があります。このような症状が続いているときには、その症状がより悪化する前に精神科や心療内科での受診をお勧めしますが、本当に受診が必要なのか悩んでいる方、初めての受診でどうしたらよいかわからない方のために、精神科には「相談窓口」があります。

今回の勉強会では精神科病院の相談室が、実際にご本人・ご家族から初めて受診する前によく受ける相談や、継続して受診している患者さん・ご家族から受ける相談、地域に暮らす精神障害者の支援体制など、精神科相談室の活用と実践について、相談室の担当ワーカー（精神保健福祉士）よりお話しいただきます。

上記のような症状がある方や、そのご家族はもちろん、地域で精神障害者を支える医療・保健・福祉の各分野のみなさんにとっても参考になる講話です。ぜひご参加ください。

お問い合わせ：神栖市社協 地域福祉推進センター 担当:名雪 電話 0299-93-0294

第184回 地域ネットワーク勉強会報告

5月21日開催〈参加者97名〉

発達障害のある子の理解と支援【後編】

『発達検査ってなあに？～検査の種類と活用法～』

講師：茨城県発達障害者支援センター
大野真裕氏〈センター長/臨床心理士〉



発達検査は認知面・社会性・運動面などのいくつかの観点から子どもの発達の度合いを客観的に測定する検査です。発達検査の他にも知能検査など、その種類や方法は数多くあり、年齢や状況等によってその子に適した検査が選ばれます。

診断結果によって自閉症であるとか知的障害があるといったことはわかりますが、具体的な支援方法についてはわかりません。その評価結果から、具体的な支援の手がかりが得られます。

自閉症の人の支援が上手くいかない場合、診断を受けていても、評価が十分になされていないという背景が多くあります。評価に基づいて要因、背景を特定して支援方法を検討するという、一見面倒と思える手続きを踏んでいくことが、最も確実な方法といえます。

発達検査によって測定できる範囲は限られていることから、実際には日頃の行動観察や親や関係者からの聞き取りによる評価がとても重要で、個別的な特性やニーズを明らかにし、得意・不得意な所を把握することで、良い評価に繋がっていくことを学びました。